

岩手県立胆沢病院

STELLAR の導入により今までの作業時間の短縮を実現
院内スタッフに掛かる負担も軽減



中村正人先生

導入効果

期待を裏切らない内容と使用者目線の
簡単操作で STELLAR の実力を実感

導入以前から STELLAR で実現可能なこと、本院が必要としている機能のイメージと整合性が合致していたこともあり導入後もイメージ通りの運用が行えています。具体的には、瞬時に過去検査データや投薬情報・履歴などの患者情報を表示でき、今までかかっていた時間も短縮され、診断スピードが上がったことで業務の効率化にも繋がっています。また、使い始めてからも予想以上に Nazca の性能性の良さを実感しました。

画像の表示がスピーディに行え、表示方法もユーザやモダリティに合わせて様々な設定ができ、過去画像と現在の画像との比較が簡単にできるなど使用者の負担を軽減できることにより効率性も同時に向上されています。操作方法も非常に簡単で説明書を開かずに、ほぼ実践で覚えられる点も様々なスタッフが使用する本院では助かりました。また、電子カルテで手一杯であり便利で有用な STELLAR の存在や起動方法を知らないスタッフもおりますが STELLAR の操作は非常に簡単明瞭ですので使用していく中ですぐに操作できるシステムだと思えます。

最近では、ほかの病院の先生からも STELLAR の評判を耳にしたり、実際に「STELLAR を導入してよかった」「STELLAR が今の流行だからね」という先生方の声を聞く事も多く、本当に画期的なシステムだと実感すると共に改めて STELLAR の実用性を感じています。院内でも研修医の先生に検査結果を瞬時に表示できるもので何かいいものがないか？と尋ねられたら迷わず STELLAR の説明をしています。

せっかく電子化したのですから、今後は電子カルテを日常的に使用することがワンステップ！一元的に管理出来る STELLAR を使用することがツーステップ!! だと考え、慣れてきたら次のステップとしてもっと便利な機能を使いこなすようにしていきたいと思えます。



STELLAR 使用風景

導入経緯

STELLAR との出会いで
画像統合と患者情報総合管理を同時に実現

当院では 2007 年に PACS システムを導入し、2009 年に電子カルテと部門システムを導入致しました。2010 年には画像統合システムが必要になり、当初は以前から導入していた PACS メーカーの画像統合システムを検討しておりましたが、非常にタイミングよくバンダーさんから多機能システムを保持しているアストロステージの STELLAR を紹介していただきました。

当初は、第一に画像の統合だけを必須項目として検討していましたが、将来的には未来型電子カルテのような検査結果や投薬情報などを、時系列で俯瞰できるようなシステムを導入したいというビジョンを掲げておりました。そこで、診療データの統括管理や画像と経歴を同時に参照できる STELLAR は思い描いていたシステムに一番近かったことで、他 PACS メーカーと競合する必要もなくアストロステージ製品の導入を決めました。当院が掲げていたビジョンが明確であったにも関わらず、アストロステージの STELLAR のシステムは当院が求めるイメージにより近くご提案いただいて非常に助かりました。

導入システム

- DICOM 画像管理システム Nazca
- 診療情報統合システム STELLAR

- 患者情報の整理と様々なデータの検索時間の短縮
- 電子化による使用者へ掛かる負担の増加

- 様々な患者情報を表示でき作業効率が上がった
- 操作が簡単なので使用者の負担が少ない

導入後の効果

岩手県立胆沢病院：システム導入時期 / Jan 2010



胆沢病院は胆江医療圏の中核的病院として、地域の公私医療機関との機能分担と連携を図りながら、一般医療のほか救急医療及び高度・専門医療を担うものとして、次の機能を有しています。

- ① 県南地域の肺癌及び疼痛対策（ペインクリニック）医療の中心施設としての機能
- ② 圏域の呼吸不全・心筋梗塞等の虚血性心疾患（PTCA）・各種脳疾患・腹部救急及び悪性新生物に対する医療機能
- ③ 白内障手術等の手術待機期間の短縮や患者負担軽減のためにデイサージャリー（日帰り手術部門）を設置
- ④ 圏域の病院群輪番制病院として二次救急医療
- ⑤ 在宅訪問、検診等保険予防活動の推進及び病院ボランティアの受入れ

所在地：岩手県奥州市水沢区字龍ヶ馬場 61

病床数：351 床

診療科：内科・精神科・神経内科・呼吸器科・消化器科・循環器科・小児科・外科
整形外科・脳神経外科・呼吸器外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科
産婦人科・眼科・耳鼻いんご科・放射線科・麻酔科

今後の方針

当院は中核病院として地域連携パスが複数動いているので今後はその部分も電子化を考えています。

脳卒中などの患者様の場合、多くの医療福祉施設が関わってきますので支援してくれる施設へそれまでの患者様のデータを的確、かつ効率良く受け渡すシステムを作っていきたいと思っています。

今後の期待・要望

- チャート表示でも検査結果を数値化
- 現在投薬情報のみを表示
- 薬と検査データのグラフ化
- 持参薬情報の取り込み

当院では、定期的に先生方が変わるためアストロステージさんも定期的に説明会などを開いていただけると皆がスムーズに使えるようになるのではないかと思います。

システム構成図

